

読書のすすめ

土岐市図書館 ☎1253

あったか料理



秋も深まってきました。こんなとき恋しくなるのが温かい料理。おでんにスープにお鍋：テーブルに並ぶ風景は体だけでなく心も温めてくれそうです。本格的な冬に備えてレパートリーを増やしてみませんか？

枝元なほみ『枝元なほみの今夜はおでん』。表紙の写真から湯気が立ち上りそうな本書。だしのとり方から、定番の具材の下ごしらえ、余ったおでんのリメイク法まで紹介しています。岐阜県をはじめとしたふるさとのおでんも掲載。とおでんをおでんを味わい尽くせる一冊です。

鈴木愛『なんとなく不調をととのえるスープ』。季節の変わり目にちよつとした体の不調を感じる方もみえるのではないのでしょうか。本書のレシピは動物性たんぱく質を使わない、体調を「ととのえる」ものばかり。旬の食材で作ったスープで胃腸を休め、自然治癒力や免疫力を高めることもできるそうですよ。

齋藤真紀『小鍋レシピ』。冬の定番、鍋料理。小さな鍋でもっと気軽に楽しんでみませんか？基本的な調理工程はたったの三つ。一回の買い物で一週間分の小鍋料理を作れるプランも紹介しています。一人暮らしの方はもちろん、家族でそれぞれ好きな小鍋料理を、なんていうのも良いですね。

私の一冊

大石 学／著
江戸時代新聞



図書館図書修理
ボランティア
やないとしひろ
築井 俊宏さん

市図書館で、『江戸時代新聞』を借りて読んでみました。すると、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の中でいわれている麒麟を連れてくる名君は、徳川家康なのでは無いのかなと思えてきました。幕府成立までの冷酷さや、統治の善し悪しは別として、260年もの間、戦争がない世の中の礎を築いたということは、当時の世界であまり例がないことであつたと思います。

『江戸時代新聞』は、江戸幕府成立から日を追って時代の流れを現代の新聞風にアレンジした、簡単に読める歴史書です。

その中で特に興味深かったのは、江戸時代中期に始まった雷電^{らいでん}為右衛門^{なえもん}（254勝10敗）などの巨漢力士たちの大相撲の記事です。その強さたるやびつくりです。

江戸時代の出来事をやや滑稽に現代風の新聞記事にしたこの本、お薦めです。



12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土	開館時間
		1	2	3	4	5	火～金曜日 午前10時～午後7時
6	7	8	9	10	11	12	土・日曜日、祝日 午前10時～午後5時
13	14	15	16	17	18	19	※変更があった場合は、 図書館のHPやTwitter でお知らせします。
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	1/1	2	
3	4	5	6	7	8	9	

お知らせ

11月22日(日)は市役所・文化プラザにて「土岐ブックフェス2020」が開催されます。

市図書館もサテライト会場として、毎年恒例のおもしろ本大賞の発表など、さまざまな企画を予定しています。

ぜひ、両会場に足を運んでみてください。